

【良性および悪性の肝疾患】

良性および悪性の肝疾患に対して肝臓切除術が行われます。良性疾患では有症状の肝内結石症や肝血管腫、肝細胞腺腫などの良性肝腫瘍、悪性疾患では肝臓の細胞ががん化してできる「原発性」肝がんと、他の臓器からがん細胞が転移し肝臓で発育してできる「転移性」肝がんがあります。【良性および悪性の肝疾患】
 原発性肝がんはさらに、肝臓を構成する細胞の違いにより、肝細胞がんと肝内胆管がんに分けられます。これらの疾患が肝切除術の対象疾患となります。多い疾患は肝細胞がんの他、とくに最近では化学療法法の進歩によって大腸がんからの転移性肝がんの切除術が増えています。
 肝切除術を受けられる患者様はこのような入院生活を送ります。併存疾患(循環器・呼吸器・糖尿病・腎疾患など)をお持ちの方は、前もってご入院いただき、しっかりと術前の全身管理をさせていただいております。一般的に、肝切除術後は手術翌日(術後1病日)から離床および歩行、そして飲水などの経口摂取が始められ、食事摂取も開始されます。術後は出血・胆汁漏や肝機能障害、手術に伴う感染症などに注意します。術後合併症がなければ術後10日前後に退院となります。
 当院では年間約50~60人の患者様が肝切除術を受けられています。肝臓切除術を必要とする患者さんは、慢性肝疾患(ウイルス肝炎など)やがんに対する化学療法による肝障害をお持ちの方も多く、さらに近年では社会の高齢化とともに、慢性呼吸・循環器疾患、糖尿病、腎不全などをお持ちの患者様も年々増加しています。当科では肝切除術前より厳格な周術期管理を行っており手術後の成績は良好です。













肝臓の手術を受ける患者様へ

患者様用

患者氏名

主治医:

担当看護師:

項目	月日	入院当日		手術当日		手術後1日目		手術後2日目		手術後3日目		手術後4日目		手術後5日目		手術後6日目		手術後7日目		手術後8日目		手術後9日目		退院日	
		手術前日	手術前	手術中	手術後	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目	手術後7日目	手術後8日目	手術後9日目	手術後10日目	手術後11日目	手術後12日目	手術後13日目	手術後14日目	手術後15日目	手術後16日目	手術後17日目	手術後18日目	手術後19日目	手術後20日目
達成目標		○手術を行うことについて理解でき、心構えができる ○不安について言葉にすることができ			○痛みなど苦痛な症状がある時に医師・看護師に伝えることができる ○術後の安静が守れる	○痛みのコントロールができる ○看護師の付き添いで歩行ができる ○食後の腹痛や嘔気がない		○痛みのコントロールができる ○痛みのコントロールができる		○必要な介助を受けながら、身の回りのことが自分でできる ○生活リズムをつけることができる									○退院後の生活について、わからないことがあれば聞くことができる ○退院後の食事について理解できる						
治療・薬剤(点滴・内服) 処置・リハビリ		○入院時に検温をします ○身長と体重を測定します 	○出検時に検温をします ○指示されたお薬のみ指定した時間に内服して下さい ○手術室に行く前に弾性ストッキングを着用し、浴衣に着替えます	○背中より持続的な痛み止めが挿入されます ○胃管や腹部に管が挿入されます	○病室時に検温をします(その後、1~2時間おきに検温をします) ○痛い時や眠れない時は点滴を使用します ○酸素マスクと心電図・酸素モニターを装着します ○24時間点滴が続きます	○朝、医師の診察があります(回診) ○回診時に医師が胃管を抜きます ○起床後、日中、寝る前に検温をします ○血糖測定をします(朝・昼・夕・寝る前)	○痛み止めの内服が始まります ○医師の許可がおりたら、術前に内服していたお薬の内服を再開します																		
検査		○採血・採尿				○採血・採尿 ○胸部・腹部レントゲン	○採血・採尿 ○胸部・腹部レントゲン	○採血・採尿 ○胸部・腹部レントゲン	○採血・採尿 ○胸部・腹部レントゲン																
活動・安静度		○病院内を自由に歩行できます(歩行状態により付き添います) ○入院中は禁煙していただきます			○ベッド上安静となります(寝返りの際はお手伝いしますので、ナースコールでお知らせ下さい)	○医師の許可がおりたら、看護士の付き添いのもと歩行ができます(歩行の際はナースコールでお知らせ下さい)	○病棟内を自由に歩行できます(歩行状態により付き添います)																		
食事		○食べられない物やアレルギーがある方は医師または看護師にお伝え下さい ○常食がです	○0時以降食事は摂れません ○5時以降の飲水はできません(うがいはできます) 		○医師の許可がおりたら、飲水が可能になります ○医師の許可がおりたら、夕食から全粥食がです	○朝・昼・夕、全粥食がです 																			
清潔		○シャワー浴をして下さい ○お顔をきれいにします				○適宜、または希望時に看護師が身体を拭きます(洗髪・足浴も可能です)																		○シャワー浴ができます 	
排泄			○朝お通じを出す座薬を入れます ○出検前に排尿を済ませておいて下さい	○手術室で尿管を挿入します	○排便はベッド上で行います	○歩けるようになったら、トイレで排便できます(看護師が付き添います) 	○尿管を抜きます(抜いたあとは、トイレで排便できます) ※お小水を溜めて下さい 																		
患者様及びご家族への説明 栄養指導 服薬指導		○看護師から術前オリエンテーション、必要物品(弾性ストッキング・浴衣・腹帯)の説明があります ○手術・麻酔の承諾書をお渡し下さい ○手術後の安静について説明します ○看護師から病棟オリエンテーション(入院生活・病棟設備・貴重品管理)についての説明があります ○内服中のお薬は薬剤師が確認し、内服を継続するか中止するか、看護師がお伝えします	○手術出検時は指輪・コンタクト・眼鏡・時計・装飾品・入れ歯(ブリッジを含む)・ヘアピンは外して下さい ○手術・麻酔の承諾書をお渡し下さい ○手術後の安静について説明します ○看護師から病棟オリエンテーション(入院生活・病棟設備・貴重品管理)についての説明があります ○内服中のお薬は薬剤師が確認し、内服を継続するか中止するか、看護師がお伝えします	○手術中はご家族はデイルームでお待ち下さい ○貴重品はセーフティーボックスに入れて、鍵は必ずご家族が管理して下さい	○痛みがある時は我慢せずにナースコールでお知らせ下さい ○身体に挿入されている管が抜けないように注意して下さい	○腸の動きや肺の動きを良くするために、また血栓予防のために、頑張って歩行しましょう ○飲水開始後に気分が悪くなった場合は、看護師にお知らせ下さい ○食事中、摂取後に吐気・嘔吐など気分が悪くなった場合は、看護師にお知らせ下さい ○歩き始めは転ぶ危険がありますので、気を付けて下さい 	○日中は座って過ごし、テレビを観て過ごすなど、できるだけ入院前の生活リズムに戻していきます   	○医師、看護師から退院後の生活について次回外来日の説明をします 																	

ご質問やご不明な点がありましたら、担当医師または看護師にお伝え下さい。予定は、お身体の状態や検査の状況で変更となる場合がございます。ご了承下さい。
 東邦大学医療センター大森病院 改訂日2022年3月15日